発行元：はり灸 Ontoku 温篤
〒300-2655
つくば市島名諏訪D8街区10画地
☎029-836-1789

【診療時間】
平日 9:30～19:00
水曜・土曜　9:30～16:00
定休日　日曜・祝日

毎月20日発行

2023年11月号
https://www.on-toku.com

温篤新聞

通巻172号

『ワクチンの光と影。』

東京都霞ヶ関には、我々国民生活の保障と向上を管轄する国の最高機関『厚生労働省』が存在します。ここ厚生労働省の正面玄関からは見えない植え込みにひっそりと石碑が建っています。これは『命の尊さを心に刻み、サリドマイド・スモン・HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する』と刻まれた誓いの碑です。

人の血液から作られる薬品である非加熱血液製剤にエイズウィルスが混入していた事により感染してしまった薬害エイズ問題、サリドマイドという睡眠薬を妊婦が服用することにより奇形の胎児が生まれるサリドマイド事件、整腸剤キノホルムの薬害により脊髄視神経(スモン)の症状の起こした薬害問題の反省から、国の政策である医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう決意を銘記し設置された石碑です。

誰もが想像しなかった突然の新型コロナウィルス感染症による世界的大流行により、今までに用いられた事のない技術のmRNAワクチンが世界で初めて緊急承認を経て、国内でも使用されるようになりました。

当初は急を要した状況だったため十分な臨床試験がなされぬままの使用になったのはやむを得ない事だったのかもしれませんが、あれから2年とちょっと、日本国内だけでも4億回以上の臨床データが出来て来ました。

その結果、1976年に始まった予防接種健康被害救済制度による認定件数が4000件を越えて来ました。

これは1976年に始まって45年間全ての認定件数である3522件をコロナワクチンだけで越えた事になります。死亡認定に至っては151件を大幅に超え、200件超です。申請された半分以上が未着手であるのを考えると今後一層認定数が増加するものと考えられます。

しかし、この認定制度はワクチンとの因果関係が否定出来ないけれども被害を受けた人を救済補償する制度です。

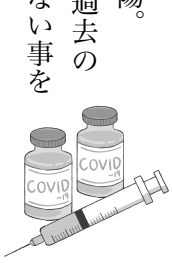
この他にワクチンとの安全性を評価するための制度として「副反応疑い報告制度」というのがあります。

こちらは医師などがワクチンとの因果関係を認められた場合に補償される制度ですが、こちらは99％以上が認められず、認定された死亡例はわずか2件のみです。

現在、日本でのコロナワクチンの接種は任意ですし、リスクは人それぞれ違いますし、研究者でない私は医学的に良い悪いは言えません。しかしこのような数字が出て来ているのは事実です。

光と影。陰と陽。

厚生労働省が過去の誓いに背く事がない事を願います。



医食同源　小麦

更年期障害による自律神経失調に良いされます。イライラを鎮めたり、急にカーッとするホットフラッシュなどの症状にも良いとされます。

喉の渇きを癒し、下痢の改善、出血や火傷などの外傷にも効果的とされます。

小麦にナツメ(大棗)、甘草を加えた甘麦大棗湯はヒステリーに用いられます。

今月のツボ　地倉(ちそう)

「地」は天地の地、すなわち土を意味し、ここでは大地の恵みである穀物を表しています。「倉」はくら、穀物を納める方形の建物を表し、東洋医学での胃の腑を示します。したがって、地倉は元気の源になる穀物が胃の腑に通じるところという意味になります。

場所は、唇を結んだ時に、その両端を口角と言いますが、そこからわずかに外側に取ります。

高血圧症や中風からくる言語障害、顔面神経麻痺による口の歪み、三叉神経痛などに用いられます。その他、胃の健康状態を表し、状態が悪いために出てくる口内炎や口角炎などにも用いられます。

二十四節気と七十二候

「くらしのこよみ」より

日本には美しい四季があります。春、夏、秋、冬…折々の豊かな表情は日々の生活に彩りを与えます。日本人は昔から季節感を大切にして暮らしの中に取り入れてきました。

その拠り所となったのが、『二十四節気』です。地球から見た太陽の通り道「黄道」三六〇度を十五度ずつ二十四に区切り、その一つ一つに節気を配して四季の移り変わりを表したものです。一つの節気は十五日程度になります。

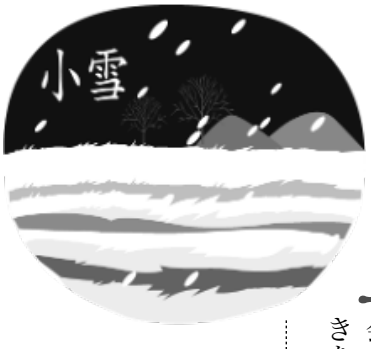
また二十四節気の一つ一つをさらに三区分し、季節の風物を言葉で表現したものが『七十二候』です。こちらはだいたい五日単位で、その季節の特徴的な自然現象を意味する名前が付けられています。

二十四節気

小雪（11月22日）

北国の冷たさが、日々はっきりと感じられるようになります。北国では里にも雪がちらつく事がありますが、まだ本格的な寒さには至りません。

ちょっとした雪、の意としての「小雪」です。



七十二候（11月23日～27日頃）

虹蔵不見（にじ かくれて みえず）

昼の時間が短くなり、陽射しもめっきりと衰えて、どんよりとした曇りがちの日も多くなります。ねずみ色の空を見上げながら、ふと、虹を見る日もほとんどなくなったと思う、そんな季節感を表しているのが、この言葉です。

一方で、俳句の季語に「冬の虹」という言葉もあるのですが、こちらは、寒々とした雨が上がった晴れ間に、ひょっと珍しいものに出会った、そんな新鮮さを含む響きを持っています。

季節のやさい

大豆

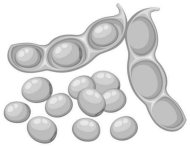
米と共に日本の食の二本柱というべき存在の大豆。

「畑の肉」といわれるほどタンパク質、脂肪、ビタミン類に富んでいます。味噌、醤油、納豆、豆腐の原料に、炒って粉にしたきな粉は菓子に、あらゆる食の場面で大活躍しています。

未成熟の大豆を枝ごと収穫したのが枝豆です。

また、お正月に欠かせぬ黒豆は、皮の色が黒い品種の大豆を示します。

東京では味を付けずに柔らかく煮上げただけの物を「みそ豆」と呼び、辛子醤油をからめて朝食の菜にすることが多かったそうです。



『親心で接する』

幼い子供は、何事においても自分中心です。親はそのような子供に対しても、喜んでそれに応じてやり、ある時には正しいあり方を教え諭します。

自分の事しか考えないのは「子供心」です。最近の世の中を見ると、自分さえ良ければという姿が多すぎるように思います。電車やバスの中で高齢者に席を譲る時でも、思いやりの心が少しでもあれば、その心が高齢者にも通じ、快く座っていただく事も出来るのではないでしょうか。見知らぬ人に道を教えるにも、お店のお客様にも、自分がその人の親になったような気持ちで接する事が、一人前の人間として、また、より良い社会を築くために、欠かせない事ではないでしょうか。

「一日一話」より

11月

○印はお休みです

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	③	4
⑤	6	7	8	9	10	11
⑫	13	14	15	16	17	18
⑲	20	21	22	㉓	24	25
㉖	27	28	29	30		

執筆余話

とはいえ、mRNAワクチンの技術開発に貢献し何百万人の命を救ったという事で、2人の方がノーベル賞を取ったニュースもありました。

しかし、発表会見でも安全性への質問があったようですが、この受賞が安全性を示すものではなく、mRNAワクチンの技術が人類の貢献に値したという趣旨のようです。

何が正しいかは私には断言できませんが、我が国だけでなく健康被害への訴訟が世界中で起こっているのは事実です。今回ノーベル賞を受賞したからといって健康被害が無いものにはならないので、それぞれを別問題として捉える必要があるのではないかと思います。

今回の数字が多いか少ないかは受け取る側の感覚で変わってくると思いますが、被害に遭われた方、家族を亡くされた方にとっては1分の1の出来事なのですから。